

天文学宇宙の講演会

28日、ビッグ・ユ-

関西学院大の中井教授

銀河中心の巨大ブラックホールを世界で初めて電波で見つけた天文学者で、関西学院大学理工学部の中井直正教授(65)の講演会が28日午前10時45分から、田辺市新庄町のビッグ・ユ-多目的ホールである。立体眼鏡を使って宇宙の旅を体験できる。無料。対象は中学生以上。

関西学院大理工学部物理学科が主催、スターフォレスト(みなべ町)後援。主題は「天文学宇宙の講演会〜宇宙の大発見はいかにしてなされたか」。午前11時〜11時40分と、午後3時40分〜4時20分の2回、「3次元立体映像による

宇宙の旅」を開く。国立天文台のシャッター眼鏡を使って、

130億年前に生まれた銀河

田辺市で天文学宇宙の講演会をする関西学院大学理工学部の中井直正教授
(田辺市役所で)



た宇宙を観賞する。定員は各50人。

中井教授の講演は、午後1時〜2時に「太陽系外に発見された惑星」、午後2時10分〜3時10分に「南極からさぐる宇宙―南極電波望遠鏡計画」がある。

中井教授は1994年、国立天文台野辺山宇宙電波観測所(長野県)の45メートル電波望遠鏡で、太陽系外の銀河の中心に巨大ブラックホールがあるのを発見。96年に仁科記念賞、2008年に日本学士院賞を受賞した。現在は南極に10メートル級の電波望遠鏡を建設するプロジェクトを進めている。

中井教授はこのほど、田辺市新庄敷町の田辺市役所を訪れた。筑波大学大学院教授の

の二本松佳樹教諭(33)との縁で今回の講演が決まったといい「講演で全国を回っており、田辺でも天文の話をする機会をつくりたい」と話した。事前の申し込みは不要。問い合わせは、中井教授(079・5665・8314、電子メール nakaik@kwansei.ac.jp)へ。